

アウトソーシング事始め

田中佐代子

はじめに

今回は「申請書のデザイン」について解説しました。今回は「アウトソーシング事始め」ということで、プロのデザイナーやイラストレーターに、研究シンポジウムのポスターやパンフレット、サイエンスイラストレーションを依頼するための心得についてふれたいと思います。ただ、まだ確証を持ってお伝えするだけの調査がすすんでいません。ですので筆者の経験によるポイントの紹介にとどめ、後はプロのサイエンスイラストレーター、デザイナー、普段から研究関連のデザインをプロに依頼している研究者へのインタビューを紹介したいと思います。

デザイン・イラスト依頼のポイント

■**デザインのテイスト**（センスの良い、信頼感、わかりやすい、ポップ、インパクト、ダイナミック...）や**イラストの画風**（細密画、写実的、CG、マンガ、ゆるキャラ...）が依頼したいものに合っているか、必要な**科学的知識やスキル**を持っているかなど、過去の制作物やプロフィールを見てデザイナーやイラストレーターを選択する。

■**デザインやイラストのサイズ・点数、納期、目的**（国際シンポジウム、国内学会、学内研究会など）、**対象**（子ども、中高生、大学生、大学院生、一般、研究者など）、**場所**（学内、市内、県内、全国、国外）、**媒体**（ポスター、チラシ、WEB サイト、雑誌、スライド、論文、申請書）、そしてデザイナーやイラストレーターへの**報酬、著作権の所在**をできるだけ明らかにし、デザイナーやイラストレーターに伝える。

■**必要な資料**を十分に準備してデザイナーやイラストレーターに渡す。またどういうデザインやイラストにしてほしいかを、スケッチやサンプル資料などを用いて、できるだけ具体的に伝える。

■**デザインやイラストの方向性**をラフスケッチなど途中段階で納得できるまでデザイナーやイラストレーターとやりとりしてから完成してもらう。ほぼ完成した段階で根本的な部分を修正するのはとても大変だからです。

■**最初の打ち合わせだけでも**、デザイナーやイラストレーターと直接会う（他の仕事でも同様ですが、メールや電話だけだと後々、誤解が生じることが多いからです）。

プロのイラストレーターにインタビュー

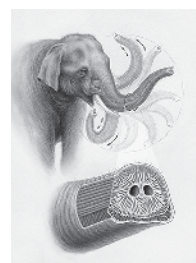
教科書、図鑑、博物館の展示などのイラストレーションを制作するサイエンスイラストレーターとして活躍中の菊谷詩子氏にインタビューしました。

Q. サイエンスイラストレーションを描く時に、いちばん大変なことは何ですか？

A. 一番大変なのは十分な資料が得られず、精度を高められない仕事です。これは世の中のどこかに存在するけれど入手できていない資料の場合もありますし、まだ証明されていなかったり、発見されていないから描かなければならない場合もあります。しかしどうしても描かなければならないとき、正しく描くと言えれば格好良いのですが、私はなるべく間違っていないように描くことを心がけています

Q. 科学者が菊谷さんのようなプロにイラストを依頼するときに、気をつけてほしいことはありますか？

A. まず相手の画風が自分の求めるものなのか見極めて欲しいと思います。そして著作権の所有と値段について、発注者とイラストレーターが合意しておくことが重要です。契約書を交わしておけば後で混乱することはありません。そして発注者は制作意図や希望を明確にしてイラストレーターに伝えること。美容院で「どんな髪型にさせていただきますか？」と聞かれて、「おまかせで」とか「いい感じにお願いします」というような返事をするところがあるかもしれませんが、イラストの依頼の場合は駄目です。それから一度目を通してOKを出した箇所に制作が進んでから修正を加えることはなるべくやめていただきたいと思います。そういった場合、追加料金が発生する場合があります。発注者と制作者の齟齬は多くの場合、綿密なコミュニケーションを取ることによって回避できます。いわば、出来上がったものは発注者と制作者の共同制作物です。細かくやりとりをして、自分にぴったりの満足のものに仕上げてください。よろしくお願いいたします。



ゾウの鼻先の構造。Natural History Magazine, 1997年、執筆・監修：Jeheskel Shoshani



菊谷詩子 Utako Kikutani

東京大学理学部動物学科で修士号を取得後、米カリフォルニア大学サンタクルーズ校へ留学、サイエンスイラストレーションを専攻。アメリカ自然史博物館でのインターン期間を経てニューヨークを中心に活動し、2001年以降は日本で活動。

プロのデザイナーにインタビュー

日経サイエンス誌のアートディレクター（ビジュアルデザインの責任者）として活躍する、八十島博明氏にお話を伺いました。

Q. サイエンス系のデザインをするときにいちばん大変なことは何ですか？

A. この分野でのデザイナーの役割には、図表の見せ方の工夫、チャートの作成、イラストレーターと組んでの作図、誌面のレイアウト、ポスター、リーフレット、書籍のデザインなど、いろいろな関わり方があります。

また、その目的も、人目を引きつける事を主としたイメージ寄りのものから、より正確な情報のやり取りが必要とされるものまでさまざまです。それらは時には相反する事もありますが、両者のバランスをどう取るかがデザイナーの腕の見せ所でもあります。また、どんな場合でも誤伝達やあいまいな伝達など、コミュニケーションエラーを生じない事に最も留意する必要があります。

Q. 科学者が八十島さんなどのプロにデザインを依頼するときに、気をつけてほしいことはありますか？

A. 結論から言えば、正確な情報量を見極め、何が一番に伝えたい事を明確にすることでしょう。

研究成果は、出来るだけ形にしておきたい気持ちは分かりますが、ポスター、雑誌のような紙媒体の場合にはページ数などの面積の制限、映像プレゼンテーションのような場合には時間という制限があります。また、そのような制限が無い場合でも、受け手の許容量には限界があると考えておいた方が良いでしょう。最初から100%受け取ってもらえる事は不可能と考え、受け手の知的レベル、関心の度合いをイメージし、「最低限これを伝えられれば成功」と考えてみて、それをデザイナーに明確に伝えてください。

ただし、準備段階として、出来るだけ多角的な資料をデザイナーにお渡しください。デザイナーは情報をもって「足し算」する事はできないので、その作業は必然的に「引き算」になります。



幹細胞ハンドブック、京都大学iPS細胞研究所、2009年



八十島博明 Hiroaki Yasojima
GRiD CO.,LTD代表、日経サイエンス誌、アートディレクター
1962年東京生まれ、桑沢デザイン研究所卒業後、森啓デザイン研究室で科学雑誌、PR誌などを担当後、1992年GRiD設立、著書として『MACで描く科学イラスト』（日経サイエンス社）がある。桑沢デザイン研究所ゼミ担当講師

研究者へのインタビュー

プロのデザイナーやイラストレーターにさまざまなイラストやデザインを依頼している東北大学の渡辺正夫氏にお話を伺いました。

Q. プロに依頼するようになったきっかけを教えてください

A. お願いしたきっかけは、2004年の採択された21世紀COEプログラムのためのロゴ作成依頼からでした。仕上がりは研究者がイメージするものとは、よい意味で全くインパクトが違い、プロジェクトは成功でした。これを契機に、研究対象のモデル図などの作成もお願いしました。

Q. どのようなものを依頼していますか？

今までに依頼した作品は、アウトリーチ活動やシンポジウムのパンフレット・ポスター、投稿論文の図版・表紙の写真、研究費申請書のモデル図など、多岐にわたります。現在では、研究内容を他分野・一般社会にも理解しやすい形に仕上げる部分をカバーしていただいています。

Q. プロに依頼するときに注意していることは何ですか？

A. 研究者がデザイナーさんに図版を依頼する際は、研究背景などの説明が不可欠です。コンセンサスがとれていないと、プロのデザイナーさんといえど、どう書けばよいか困惑されます。異分野のプロ同士なので、お互いに譲れない場面も見受けられます。原因として、研究者は正確性を、デザイナーさんはわかりやすさ・簡潔さを求めることに起因していると感じます。どちらがどこまで譲るかを論じるのは難しいですが、お互いを尊重し合うのがポイントだと思います。

Q. 支払う費用や、対費用効果についてどう思いますか？

A. デザイナーさんのランクにもよりますが、1デザイン当たり、5~10万円が相場です。ずいぶん高いと思われる方もいるかもしれませんが、プロがクリエイティブな仕事をしていることを念頭におけば、研究のプロである読者にも理解できると思います。現在では、科研費などの外部資金でも、代金を支払うことができます。最近では、さまざまな実験でアウトソースが可能となり、研究への費用対効果意識も生まれつつあります。そう考えた時、美しいポンチ絵でデータの説得力が上がり、インパクトの高い雑誌に採用される可能性が高まれば費用対効果としては十分です。高い実績は次の外部資金獲得にもつながります。デザインに使う予算は実験試薬に使う予算と同様、いや、それ以上に重要になってくるはずですが、異分野交流で、新しい世界の広がりを体験するのはいかがでしょうか。



渡辺正夫 Masao Watanabe

東北大学大学院生命科学研究所教授。研究テーマは、アブラナ科植物における自家不和合性の分子メカニズムの解明と分子育種。趣味は旅行、歴史関連本読書、サッカー観戦。

おわりに

今回は「デザイン・イラストの著作権」というテーマで、研究者として最低限おさえておきたい著作権のポイントを解説します。どうぞお楽しみに。